

非常勤医のマネジメントのツボ

Case2 非常勤医が診療方針を事前に決定 非常勤医の心理的負担に配慮する

医療法人社団鉄祐会 祐ホームクリニック（東京都文京区）

チーム制を導入

初診や緊急時は常勤医が担当

東京都文京区を中心に現在
350人の在宅患者に対し診療を
行っている祐ホームクリニックに

は、30人弱の非常勤医が勤務して
いる。週1回のみ勤務という非
常勤医も少なくないため、医師間
の情報共有方法には工夫を凝らし
ている。

同院では、医師を固定する主治

DATA

医療法人社団鉄祐会
祐ホームクリニック
東京都文京区千石4-25-
5 KSTビル3F
TEL: 050-3784-2001
URL: <http://www.you-homeclinic.or.jp/>
診療内容: 在宅医療

医制を敷いており、非常勤医が受
け持ち患者を持つ。これによつて
患者やその家族と信頼関係を構築
させる。併せて、チーム制を導入。
医師やその他の職員を2チームに

分け、それぞれのチームの担当エ
リアを設定している。

「患者数が増えるにしたがつて、
全員のことを把握するのが難しく
なります。そのため、すべての職
員がすべての患者さんに対応する
のではなく、各チームが決められ
た患者さんを担当する方式に改め
ました。これによって情報把握が
楽になり、非常勤医のフォローや
緊急時の対応もしやすくなると考



医師やその他のスタッフを2チームに分け、担当するエリアを設定している

えました」と、林恭弘院長は説明する。

チーム制の導入時に、診療の方法も一部変更した。初回はチームの常勤医が訪問して情報収集を行い、治療方針や緊急時の対応などを可能な限り詳細に決め、それをカルテに記載しておく。さらに患者や家族の様子なども考慮して、担当してもらう非常勤医を選別する。担当になった非常勤医は、常勤医がまとめたカルテを基に診療を進めるというスタイルだ。

が難しいと判断した患者については常勤医が継続して主治医となるほか、症状が安定していた患者が急変したり、入院すべきかの判断が必要な場合も常勤医がフォローすることとなっている。

「在宅医療においては、『口から食べられなくなった時はどうするのか』、『体調が急変したら入院するのか』といった、かなりセンチティブな内容についても患者さん・ご家族からその意向をきちんと聞いて方針を決めておくことが求められますが、非常勤医にこれを求めるのは酷でしょう。困難な場面や判断が必要な際には常勤医が対応することになっています。これにより、患者さん・ご家族の安心感を確保すると同時に、非常勤医の負担も軽減できると考えています」と、林院長は強調する。

気軽に相談できる環境を整備 今後は教育にも注力

このように、非常勤医の心理的な負担に配慮することを重視する林院長。

「『この患者の責任者は誰か』が明確になっていないと、非常勤医が



林恭弘院長

負担を感じ、安心して診療に専念できなくなってしまう可能性があります。だからこそ院長として大切にしているのは、非常勤の先生方に心配なく、気持ちよく働いてもらうこと。チーム制での運用に変更することで、最終的に責任を持つのは各チームの常勤医であると明確に示せたのではないかと思います」

このほかにも、訪問前と終了後に医師や連携室で担当患者について話し合う機会を設けるなど、非常勤医はいつでも常勤医、連携室に報告・相談できる。また複数の診療科の医師が勤務しているため、必要に応じて、他科へコンサルテーションすることもできる。これにより非常勤医の専門外の治療への不安を取り除くよう努めている。

今後は、教育システムの構築に取り組みたいと、林院長は抱負を

語る。

「幸いなことに、これまで働いていたいただいた非常勤医は意欲もあり、きちんと患者さんに向き合っていたので問題となることは少なかったのですが、患者数が増えます増加する今後は、何らかの教育システムも必要になると思います。当院の仕組みやスタッフの動き、治療方針などを理解してもらうための教育体制を構築していければ、と考えています」

マネジメントのポイント

- 1人の患者を継続的に診療する主治医制を導入
- チーム制を導入し、初診や急変時は常勤医が対応する体制を確立。診療方針なども常勤医が詳細に決定する
- 困難な場面や判断が必要な場面では常勤医が介入。非常勤医の心理的負担を軽減している